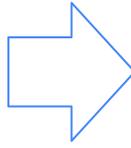


# 本来のおもちゃの楽しさについて

熊本県立熊本北高等学校  
UR II 生活科学講座 2班

## 仮説

- ①おもちゃの特性、特徴が  
幼児の感じる楽しさに関係していると思う
- ②おもちゃのみで遊ぶことが楽しいと思う



## 結論

- ①おもちゃよりもどんな環境で  
誰と遊ぶかのほうが幼児の感じる楽しさに関 した
- ②おもちゃ+遊び場(設定)のほうがより楽しめた

## 1 はじめに

おもちゃには色や形、サイズ、デザイン、音など様々な特性、特徴がある。私達の班ではそこに着目して研究を進める。

## 2 実験方法

- (1)夏休みに班員それぞれが考えておもちゃを作る



- (2)作ったおもちゃを幼稚園の先生に見せて  
アドバイスをもらう

- (3)幼稚園に行き、幼児と一緒に遊んでみる



- (4)アドバイス、実体験をふまえて  
班でおもちゃを作る



- (5)作ったおもちゃでもう一度幼児と一緒に遊ぶ

## 3 実験結果

### 幼児とおもちゃの関係

幼児はおもちゃの特性、特徴によって楽しさは決まっていたけど実際に幼稚園に行ってみて幼児と接したことで同じおもちゃで遊んでもどんな遊び場で誰と遊ぶかによって楽しさの度合いが決まる。

## 4 考察

実験結果を通してどんなおもちゃで遊ぶよりどんな遊び場で誰と遊ぶかが大事ということを学んだ。このことからおもちゃの目的は遊ぶというよりは人と人とを繋ぐためにあり、おもちゃ遊びの本来の楽しさはおもちゃ遊びを通してできる人とのコミュニケーションだと考えた。

## 5 今後の課題

今回は事前におもちゃを作って持っていったがおもちゃは人と人とを繋ぐためにあると学んだので次回は幼児と一緒に作ったおもちゃで遊びたいです。

## 6 参考文献

- ・名古屋芸術大学 人間発達学部 高井芳江  
乳幼児にとってのおもちゃの役割についての研究  
—機能遊びから象徴遊びそして実物志向へ—